

設定した言語活動を通して育てたい力

○ **日本が不平等条約を改正することができた理由について、明治政府の諸改革と関連付けて考えることができる。**

思考力の育成

- ◇ 学年 第6学年
- ◇ 単元名 明治維新から世界のなかの日本へ
- ◇ 本時の目標 条約改正までのあゆみや日本が不平等条約を改正することができた理由を調べることを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことについて考えることができる。
- ◇ 学習の流れ(11時間目/全13時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 条約改正までのあゆみを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時に家庭学習の指示をしておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約の内容と問題点の復習 ・条約改正までのあゆみのワークシート(年表)への整理 ◇ノルマントン号事件を例に、条約改正が明治政府の大きな課題であったことを実感させる。 ◇陸奥宗光や小村寿太郎の働きについてまとめさせ、改正までに約50年かかっていることを確認させる。 ◇欧米諸国が条約改正に応じなかったのは、日本の近代化の遅れが原因であったことを考えさせる。 	
2 本時のめあてを確認する。	<p>日本が不平等条約を改正することができた理由を明治政府の諸改革と関連付けて考え、説明しよう。</p>	
3 不平等条約を改正することができた理由について、明治政府の諸改革と関連付けて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ◇既習事項を基に政治、軍備、産業、文化などの視点から不平等条約を改正することができた理由を考えさせる。 ◆教科書やノート、年表等を確認させ、明治になってどんな改革が行われたかを考えさせる。 	<p>事象と事象とを関連付けて考えさせましょう。</p> <p>★視点を示すことで、歴史的な事象を多面的に捉えさせることができます。</p>
4 個人で考えたことを根拠を示しながら説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ◇個人でノートにまとめた後で、条約改正のために一番重要だったと考えた改革等とその理由をペアで説明させる。 ◇友だちの考えと自分の考えを比べ、同じところや違うところを踏まえて全体で発表させる。 	<p>順位付けすることで、さらに深く考えさせましょう。</p> <p>★順位付けすることで他の事象と比較し、根拠をより明確に示す必要が生じます。</p>
期待したい児童の反応		
○僕は廃藩置県や四民平等などで近代的な政治や社会の仕組みを整えたことが一番だと思います。それに、大日本帝国憲法を發布して、アジアで初めて憲法に基づいて政治を行う国となったこともあったからだと思います。(政治)		
○私は徴兵令を出して軍隊をつくったことが一番だと思います。理由は、軍隊を強くしたから日清戦争や日露戦争に勝つことができたからです。だから、欧米諸国も改正を認めたのだと思います。(軍備)		
○僕は軍隊もあるけどやはり官営工場を造ったことが一番だと思います。工業を盛んにして外国と競争する力が付いたからです。それに兵器も日本の工場で作ったので軍隊も強くなったのだと思います。だから工場を造ったことが一番重要だと思います。(産業)		
○私は学校をつくって勉強させたことが一番だと思います。勉強して世界でも認められるような科学者がたくさん出たからです。みんなが勉強したから技術も発達して工場でいろいろなものがつくれるようになったのだと思います。(文化)		
5 明治政府の諸改革によって日本の立場はどのように変わったかを考える。	<p>他の国に認められて、欧米諸国と対等な立場に立つことができました。</p> <p>◇日本の国力が充実し国際的地位が向上したことで、欧米諸国と対等な立場に立つことができたことをおさえる。</p>	
6 本時のまとめをする。	<p>◇本時のめあてに対するまとめを考えさせる。</p>	
児童のまとめ例		
・日本が不平等条約を改正することができたのは、明治政府が諸改革を行ったことで国力が充実し、国際的地位が向上したことで、欧米諸国と対等な立場に立つことができたからです。		
7 本時を振り返り、次時につなげる。	<p>◇欧米諸国と対等な立場になったことで、日本はその後どんなことを目指そうとしたかを考えてくるよう指示する。</p>	<p>・日本が不平等条約を改正することができた理由について既習事項を関連付けて考え、説明している。 〔思考、判断、表現〕 (ノート)</p>

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 大阪空港公害訴訟における環境権の保障を求める住民側と公共の福祉を主張する空港（国）側のそれぞれの立場を考察することができる。

思考力・判断力の育成

- ◇ 学年 第3学年
- ◇ 単元名 日本国憲法と基本的人権
- ◇ 本時の目標 大阪空港公害訴訟における環境権の保障を求める住民側と公共の福祉を主張する空港（国）側のそれぞれの立場を考察することを通して、個人の人権と公共の福祉との関係について考える。
- ◇ 学習の流れ(9時間目/全10時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)											
1 前時までの学習内容を確認する。	◇既習事項である「環境権」と「公共の福祉」について確認させる。												
2 本時の事例を確認する。	◇大阪空港公害訴訟の概要について説明する。 ◇住民側と空港（国）側の主張を予想させる。												
<p>大阪空港公害訴訟（1969年提訴） 大阪国際空港（国営）の離発着路のほぼ真下に住む住民たちが、航空機による騒音、振動など多様な被害を受けているとして、環境権に基づいて夜9時から翌朝7時までの夜間飛行の禁止と過去、将来の被害に対する損害賠償を請求した。</p>													
3 本時のめあてを確認する。	◇本時の学習に対する見通しをもたせる。												
<p>大阪空港公害訴訟において、「環境権（住民側の求める権利）」と「公共の福祉（空港（国）側が主張する権利）」のどちらが優先されたのだろうか。</p>													
4 大阪空港公害訴訟でどのような判決が出たのか考える。	◇裁判の争点である「夜間飛行の禁止」「過去の損害賠償」「将来の損害賠償」のそれぞれについて、住民の訴えが認められたかどうかについて、個人の判断とその根拠・理由を考えさせる。 ◆既習事項である「環境権」と「公共の福祉」を再度確認させ、その視点から考えさせる。 ◇グループで話し合い、班としての判断とその根拠・理由を考えさせる。	<p>考察の視点を明確にし、その視点に基づいて自分の考えをまとめさせましょう。</p> <p>★対立と合意、効率と公正の見方や考え方をを用いることで、現代社会をとらえる見方や考え方を深めることができます。</p>											
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>判断</th> <th>根拠・理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夜間飛行の禁止</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>過去の損害賠償</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>将来の損害賠償</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			判断	根拠・理由	夜間飛行の禁止			過去の損害賠償			将来の損害賠償		
	判断	根拠・理由											
夜間飛行の禁止													
過去の損害賠償													
将来の損害賠償													
5 住民側と空港（国）側の立場を考察する。	◇班としての判断とその根拠・理由を発表させ、まとめる。 ◇資料を基に切り返しの発問を行い、生徒の考察を揺さぶる。	<p>反論の資料を基に生徒の考察を揺さぶりましょう。</p> <p>★単に発表させるだけではなく、生徒の考察を揺さぶることでより深く考察させることができます。</p>											
<p>〈予想される生徒の考察〉</p> <p>【住民側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法25条で保障されている生存権が認められていない。 ・我慢できないほどの騒音・振動である。 ・住民には幸福追求権（第13条）がある。 <p>【空港（国）側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際空港だから、夜間の飛行はやめられない。 ・公共の福祉だから、住民に我慢してもらうこともある。 ・空港は公共施設であり、多数の利用者の利便性・幸せを考えると住民に我慢してもらう必要がある。 <p>〈生徒の考察を揺さぶる資料〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港を利用する人々 ・高速道路建設に伴う立ち退き ・圏央道訴訟 ・普天間基地爆音訴訟における損害賠償の支払い判決 ・眺望権の侵害に対する損害賠償の支払い判決 													
6 判決内容を確認する。	◇実際の裁判の判決内容について説明する。												
<p>最高裁判所まで3回の裁判が行われ、夜間飛行の禁止については、裁判所の判断も分かっている。また、過去の損害賠償（住民の過去の被害に対する賠償）はすべての裁判で認められているが、将来の賠償については意見が分かれている。</p>													
7 本時のまとめをする。	◇本時のめあてに対するまとめを考えさせる。												
<p>生徒のまとめ例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらか一方の主張が全面的に認められたわけではなく、個人の人権も公共の福祉のどちらも尊重されている。互いの権利を尊重しあうことが必要である。 													
8 本時を振り返り、次時につなげる。	◇現在の関西国際空港の環境への対策について説明する。	<p>・個人の人権と公共の福祉との関係について、双方を尊重する視点から考え、説明している。 〔思考、判断、表現〕 (ワークシート)</p>											

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 日本の都市・居住問題について、資料を用いて根拠を示しながら説明することができる。

思考力・判断力の育成

- ◇ 学年 第3学年
- ◇ 単元名 都市・居住問題
- ◇ 本時の目標 日本の都市・居住問題に関する地理的事象を、自分の生活経験や既習の知識と結び付け、考察することができる。
東京都市圏に関する資料から必要な情報を取り出し、その内容を的確に表現することができる。
- ◇ 学習の流れ（3時間目／全3時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
<p>1 本時のめあてとグループ発表の際の注意点を確認する。</p> <p>○ 資料①から「日本の人口重心は1965年から2010年の間、どの方向に移動したか」を予想させる。</p> <p>2 各資料が示す東京都市圏内の都市問題について考察する。</p> <p>○ 資料②から「東京50km圏内を5つのエリアに分けた場合の人口分布はどうか」を予想させる。</p> <p>○ 「ドーナツ化の進行を示す的確なデータは何か」に答える。</p> <p>○ 資料③から「エリアごとの人口増加率を示すグラフ中のどこに着目すればドーナツ化現象を読み取ることができるか」に答える。</p> <p>○ 資料④から「東京都市圏内の人々の移動の特徴は何か」に答える。</p> <p>○ 資料⑤から「東京都市圏内でみられる都市問題は今後どのように変化していくのか」に答える。</p> <p>○ 資料⑥から「東京都心（0～10km圏）の人口増加率は現在どのような特徴を示しているか」を予想させる。</p> <p>3 東京都市圏内での都市問題が広島市の都市圏でも起きるのかを考察する。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>◇ 根拠を明らかにして、意見や考えを発表することや、結論を先に言うことなどを意識させる。</p> <p>本時のめあて 東京都市圏の都市・居住問題の変遷が説明でき、今後の動向を予想できるようになる。また、広島市の都市圏での問題との違いを説明できるようになる。</p> <p>◇ 生徒が資料から読み取れる内容を明確にできるよう、資料の見方、とらえ方について補足説明を行う。</p> <p>資料① 日本の人口重心 資料② 東京50km圏内の5つのエリア 資料③ 東京都市圏の距離帯別人口増加率 資料④ 地域間トリップ数（2008年） 資料⑤ 地域間トリップ数の伸び（1998～2008年） 資料⑥ 東京10km圏の人口増加率 資料⑦ 広島市周辺部の地図</p> <p>全体で発表させることで、資料の見方を共有し、考えを深めるための追加発問や指示を行う。</p> <p>資料②から予想した人口分布を根拠とともに発表させる。</p> <p>↓</p> <p>ドーナツ化現象を示すデータとして資料②では不十分であることを指摘する。</p> <p>↓</p> <p>考えを深める</p> <p>↓</p> <p>資料としては、人口分布ではなく、人口増加率が適していることを確認する。</p> <p>↓</p> <p>資料の見方を共有する</p> <p>↓</p> <p>資料③から人口増加率を示すグラフのどこに着目すればいいかを確認する。</p> <p>↓</p> <p>資料⑥から人口増加率の特徴を読み取るためには、グラフの縦軸、横軸に着目すればよいことを確認する。</p> <p>◆グループ協議の中で、発問した内容や資料の見方について理解できていない生徒やグループについては、机間指導で個別に、あるいはクラス全体で確認する。</p>	<p>意見や考えを発表する際のルールを作りました。</p> <p>★根拠となる資料を示し、説明することで、相手の理解が深まることや、自分とは異なる意見をもつ他者への配慮について意識させることで、発表しやすい空間を作ることができます。</p> <p>資料のどこに着目すれば、特徴が読み取れるのかを意識させ、資料から読み取れる内容を表現させましょう。</p> <p>★資料を読み取る際の視点を明確にすることで、地理的事象の空間的な規則性や傾向性を見いだす地理的見方を育てることができます。</p> <p>・複数の資料から日本の都市・居住問題の変遷と今後の動向について、考察し、表現している。 〔思考力、判断力、表現力〕（観察、発表）</p>
<p>5 本時を振り返り、次時につなげる。</p>	<p>◇ 資料から読み取れる内容を吟味できたか自己評価表で振り返らせ、次時の学習での活用を意識させる。</p>	

生徒のまとめ例

・東京都区部の交通渋滞や鉄道の混雑だけでなく、郊外エリア間の移動も多くなり、都市問題が広域化する。都心部の地価下落や再開発などで都心回帰が進み、東京50km圏内の人口は引き続き増加するだろう。広島市の郊外でも都市化が進行し、同様の都市問題が起こる可能性はあるが、都市圏の広がりや東京都市圏に比べて狭い。

設定した言語活動を通して育てたい力

- 震災における避難所生活の報道に対して、どのような制度や規範により調整すべきかを考え、その理由を具体的な事例を基に述べることができる。

思考力の育成

- ◇ 学年 第1学年
- ◇ 単元名 高度情報社会と私たちの生活
- ◇ 本時の目標 震災による避難所生活の報道に関して、報道する側と報道される側のメリットとデメリットを考え、それに基づいてどのような制度や規範により調整すべきかを考えることができる。
- ◇ 学習の流れ（2時間目/全3時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）									
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 阪神・淡路大震災による難所生活の報道に関して、どのような報道がなされたかを、事例から確認する。</p> <p>3 2について、報道することから生じる、報道する側と報道される側のメリットとデメリットについて、ワークシートに記入する。</p>	<p>◇ペアになり、意見を述べ合うよう指示する。</p> <p>予想される生徒の解答 【ワークシート】</p> <table border="1" data-bbox="544 1077 1236 1285"> <thead> <tr> <th></th> <th>メリット</th> <th>デメリット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>報道される側</td> <td>・被災者の困窮生活が国民に伝えられ、国民の支援の気持ちは高まる。</td> <td>・被災者のプライバシーが侵害される。</td> </tr> <tr> <td>報道する側</td> <td>・視聴者の心理をとらえる興味本位の報道をすることで、視聴率が上がる。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		メリット	デメリット	報道される側	・被災者の困窮生活が国民に伝えられ、国民の支援の気持ちは高まる。	・被災者のプライバシーが侵害される。	報道する側	・視聴者の心理をとらえる興味本位の報道をすることで、視聴率が上がる。		<p>具体的な事例を基に考えさせましょう。</p> <p>★具体的な社会的事象の意味、意義を解釈することにより、社会的事象についての見方や考え方を成長させることができます。</p>
	メリット	デメリット									
報道される側	・被災者の困窮生活が国民に伝えられ、国民の支援の気持ちは高まる。	・被災者のプライバシーが侵害される。									
報道する側	・視聴者の心理をとらえる興味本位の報道をすることで、視聴率が上がる。										
<p>4 3を基に、震災による避難所生活を報道する際の配慮事項をグループで考え、まとめる。（5人ずつのグループ学習）</p>	<p>予想される生徒の解答</p> <p>①公平な立場：視聴者のみを意識するのではなく、被災者及びその関係者の立場に立った報道をする</p> <p>②時間軸：報道が短期的又は長期的にどんな影響をもつかを考える。</p> <p>③集団サイズ：報道により、どれだけの人へ影響が出るかを考える。</p> <p>④客観性：正確な情報を基に報道する。</p> <p>⑤手続き：報道前、報道後に関係者へ丁寧な説明を行う。</p> <p>整理のポイント 「誰に」、「いつ」、「どのような内容で」、「どのような手続きで」を意識して考える。</p>	<p>項目を考えさせ、順位を付けさせましょう。</p> <p>★順位を付けることにより、制度や規範の社会的意義を考えることとなります。また、発表することにより、自分の考えと他者の考えを比較することができます。</p>									
<p>5 震災による避難所生活の報道に対して、どのような制度や規範により調整すべきかを考える。グループで考え、順位を付け、発表する。（5人ずつのグループ学習）</p> <p>6 災害による被災者の生活に関する報道に対して、どのような制度や規範により調整すべきかを各自で考え、まとめる。</p>	<p>予想される生徒の解答</p> <p>○被災者のプライバシーの保護という規範に基づいた報道をすべき。</p> <p>○被災者の肖像権の保護という規範に基づいた報道をすべき。</p> <p>○報道による関係者へ影響の大きさと不十分な報道による悪影響の大きさを考慮して、報道すべき内容を決定すべき。</p> <p>◇別の災害の事例を基にまとめさせる。</p>	<p>・震災における避難所生活の報道に対してどのような制度や規範により調整すべきかを考え、根拠を示しながら説明することができる。「思考・判断・表現」（ワークシート）</p> <p>・震災による避難所生活の報道に関して、報道する側と報道される側のメリットとデメリットを考え、それに基づいてどのような制度や規範により調整すべきかについて意見を述べるすることができる。〔思考・判断・表現〕（ワークシート）</p>									
<p>生徒のまとめ例</p> <p>・災害による被災者の生活に関する報道において、興味本位の報道をすることで視聴率が上がるという報道する側のメリットが優先され、被災者のプライバシーが侵害される場合があることを踏まえ、被災者のプライバシー保護に関する規範及び報道する意義を考慮した上で報道内容を決定すべきと考える。</p>											
<p>7 本時を振り返り、次時につなげる。</p>	<p>◇立場の違いを踏まえて考える方法が身に付いたか自己評価表で振り返らせ次時の学習での活用を意識させる。</p>										